

Awwright me luvver?

イングランド屈指の港湾都市は、 歴史的たたずまいの中に モダンな建物が調和する注目の街へと変貌

イングランド南西部における有数の貿易港として、また、造船や重工業の街として栄えて来たブリストル。近年、その湾岸エリアを中心に再開発が進み、アーティストや若者たちからも注目を集める都市となっています。歴史的たたずまいを残しつつ、大胆な近代化を遂げるユニークなこの街を、ちょっとのぞいてみませんか。
Text&Photo Mami McGuinness www.mamimcguinness.com

ブリストルのランドマーク的存在

① Bristol Cathedral

ブリストル大聖堂

1140年に聖アウグスティヌス修道院の教会(Abbey)として建設されましたが、1539年に教会は閉鎖され、その後1542年に大聖堂(Cathedral)として生まれ変わったのが、このブリストル大聖堂。街の中心部にあり、まさにブリストルの歴史、文化の中心、ランドマークとして多くの観光客が訪れる場所となっています。

聖堂の中のチャプターハウスと呼ばれる部屋は、1831年に再建された東側の壁をのぞいては、1165年に完成した当時のままのノルマン様式の姿をとどめていて、一見の価値あり。また、聖堂の身廊の西端にある「バラ窓」と呼ばれる円形のステンドグラスの美しさでも知られています。

College Green Bristol BS1 5TJ
Tel: 0117 926 4879

8:00-18:00 (月-金) 8:00 - 17:30 (土)
7:30-17:00 (日) 無料
www.bristol-cathedral.co.uk



建物の隣に広がるスクエアから見る大聖堂の眺めも美しい

ウォーターフロントを眺める広々とした空間

現代アートの世界に浸れる空間

Arnolfini ②

アルノルフィニ

コンテンポラリー・アートの発信地として、ヨーロッパ内でも注目されている存在のひとつ、アルノルフィニ。ウォーターフロントに建つ、19世紀の倉庫を改造した建物内では、ビジュアル・アート、パフォーマンス、映画にダンスなど、新鮮で刺激的な展示を常に行っています。

また、アート関係の雑誌が100種類以上も揃うというブックショップは、年中無休で毎日午後8時まで営業。普通の書店では見つけられなかったようなアート関係の専門書も、ショップスタッフに尋ねれば探し出してもらえる可能性大です。

Narrow Quay Bristol BS1 4QA

Tel: 0117 917 2300

10:00-20:00 (月-水、金-日)、10:00-18:00 (木)
無料 www.arnolfini.org.uk



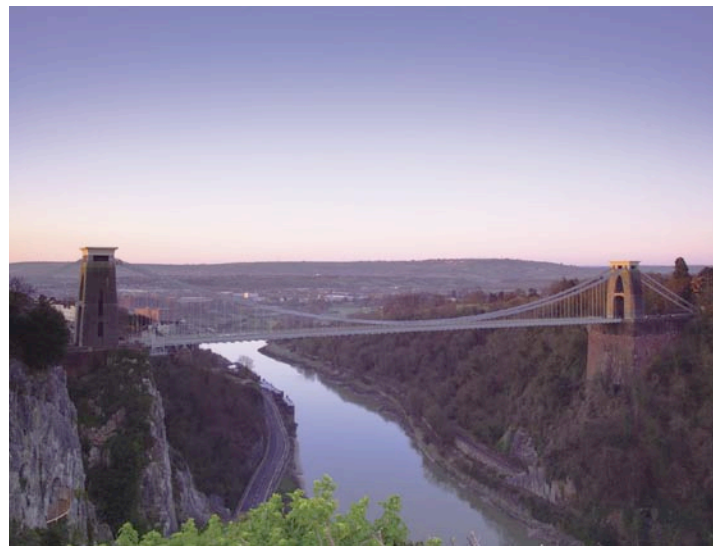
2007年、1年を通しての注目のイベント Abolition 200

Abolition 200とは、奴隷制度が廃止されて今年で200年を迎えることを意味しています。イングランドでも有数の貿易港として栄えたブリストルは、奴隷貿易が盛んな場所でもありました。1698年から1807年の間に、2000回を越える航海で、50万人ものアフリカ人たちが西アフリカからカリブ諸島やアメリカへと奴隷として送る重要拠点となったのがブリストル港だったのです。しかしそうした背景から、むしろ奴隷制度の非人道的性、その問題に気づき、奴隷貿易廃止の活動が積極的に行われたのもこの地でした。今年の奴隷制度廃止200周年にあたって、ブリストルは、積極的にその悲惨な歴史と人間の自由、平等について、一般の人々にも知り、考えてもらおうと、さまざまな展覧会やイベントを行う予定です。チャンスがあったら、ぜひこれらのイベントをのぞいてみてください。詳しい行事予定については、ウェブサイトにてご確認ください。 www.abolition200.com

18世紀には、国内で第2の規模を誇る貿易港として栄えていた都市、ブリストル。その港湾都市としての歴史は長く、かつては、アイルランドや北米との貿易も盛んに行われていました。しかし、産業革命期になり、マンチェスターやリヴァプールといった他の工業都市にその繁栄を奪われ、また、1807年に奴隷貿易が禁止されたことを受けて、急速にその経済力を失っていきました。さらに、第2次世界大戦時にはドイツ軍からの激しい爆撃を受け、市街地はかなりのダメージを受けてしまいます。

しかしその後、街は復興を遂げ、近年は航空宇宙産業や、音楽、映画産業の分野での影響力を誇っています。また最近では、港の周りも再開発が進み、モダンなビルや新しいショッピングセンターなどが次々と作られ、若い世代にも都市としての魅力をアピール。夏に行われるブリストル国際気球フェスタといった、世界的に有名なイベントなどもあることから、現在では、イギリスで7番目に多く外国人観光客が訪れる都市として、年間900万人もの観光客を集めています。

街の中心からはすこし離れているものの、1度は訪れたい場所

www.britainonview.com

世界的に知られる名橋のひとつ

Clifton Suspension Bridge ③

クリフトン・サスペンション・ブリッジ

ビクトリア時代の設計技師アイザンハート・キングダム・ブルネル(Isambard Kingdom Brunel)が、1830年、わずか24歳のときに設計したというこの橋は、全長約214メートル、ブリストル西部のエイヴオン渓谷にかかっています。1831年に着工予定だったものが、政治的、資金的問題によって、工事は中止。設計者のブルネルが1859年に53歳でなくなった後、1864年によりやく完成しました。

19世紀には騎兵隊が通っていたこの吊り橋ですが、21世紀の現在では、毎日約1万1000～2000台の乗用車によって利用されています。歩行者の通行も可能ですので、徒歩で渡って、橋の上からの展望を楽しんでみるのもおすすめ。ライトアップされた夜の姿もロマンチックで素敵です。

Clifton Suspension Bridge Trust Bridgemaster's Office
Leigh Woods Bristol BS8 3PA
毎日通行可能。車での通行50ペンス、歩行者、自転車は無料
www.clifton-suspension-bridge.org.uk